



ひらすま新聞124号

2019年(令和元年)9月発行

誕生会

みなさんこんにちは。5月に高岡大和で行われた「ユース・フォーラム 2019 in 高岡」で「20年後のあなたと対話する」をテーマに、ひらすまでのボランティア体験を書いて、高岡向陵高校3年の坪井さんが最優秀賞を受賞されましたのでご紹介します。ぜひ、読んでみて下さい(^^) 佐伯

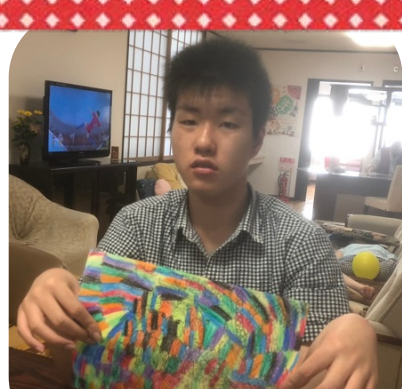
『私の夢は、特別支援学校の先生になることだ。その夢を持ったきっかけは特別支援学校に通う弟のおかげかもしれない。私が小学生の時にに行った弟の学校の文化祭で働く先生たちを見た。その時に見た先生たちは忙しそうに見えて自分の仕事を楽しんでいるようにも見えた。弟が学校でどう過ごしているのか不安だった私はそんな先生たちを見て安心することが出来た。障がいを持つ生徒たちは先生を信頼しており、その一人一人に丁寧に対応していく先生の姿に私は憧れをもった。その頃から私は、いつかこんな先生になって弟のような障がいを持つ子の力になりたいと思い始めた。その夢は今も変わらず、実現するためにより具体的な目標ができあがってきた。その目標の一つは大学進学だ。私がもし先生になれば自分が持つ知識や経験を活かした教育を生徒たちに提供したい。そのためには大学に行き、そこで専門的な知識や豊富な経験を身に付ける必要がある。また、学校の先生は障がいを持つ子どもが社会に出てどのように生きていくのかを考える必要がある。私は障がいを持つ子を社会が受け入れてくれるのか、社会に出て仕事をするのが、子どもたちにとって良いことなのか悪いことなのか、そして障がいの程度にもよるが子どもたちができる仕事にどのようなものがあるのかに関心がある。もちろん障がいを持っているからといって働くことを制限することはあってはならないし無理に働かせることもあってはならない。子どもたちが自ら働きたいと思う必要がある。しかし子どもたちがそう思ってもそれを受け入れてくれる社会があるのか私には分からなかった。

春休みに、高齢者、障がいのある方、小さな子どものみならず地域住民が集い多様なサービスや活動をしているひらすまでのボランティアに参加した。その際に私は思い切ってそのスタッフの方に「障がいのある方はどんな仕事をしているのか」と聞いてみた。すると逆に「仕事とはどんなことを言うのか」と聞き返された。私は仕事とは「働いてお金を稼ぐことではないか」と答え、スタッフの方は「お金を稼ぐことだけが仕事ではない」と答えられた。お金を稼ぐこと以外に何を仕事というのか私には分からなかったが、その方は教えてくれた。「たとえば手足が動かない人も目が見えない人も耳が聞こえない人もその人にしかできないことがある、たとえば計算ができなくても文字が書けなくてもその人にしかない個性がある。障がい者、その一言でまとめてしまうのは簡単だが彼らは素晴らしい能力や個性、感情をもっている」と。私はその言葉を聞いたときに理解できた。仕事とはお金を稼ぐことではなく、ただ誰かを幸せにし、喜ばせるようなものだ。一日のほとんどを笑っていたり、素晴らしい芸術センスを持っていたり、そんな個性を持つ彼らは彼らのやり方で人々を幸せにしている。そのことに気づくことができ、考え方を改めることができたのは私にとって貴重な経験だった。この経験を活かして弟のような子どもたちに、たくさんの仕事があることを伝えていきたい。』





バランスボール楽しいね♪



絵合わせカルタに苦戦中！日が暮れちゃうよ～。



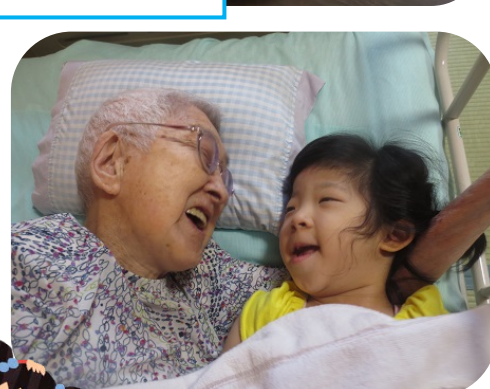
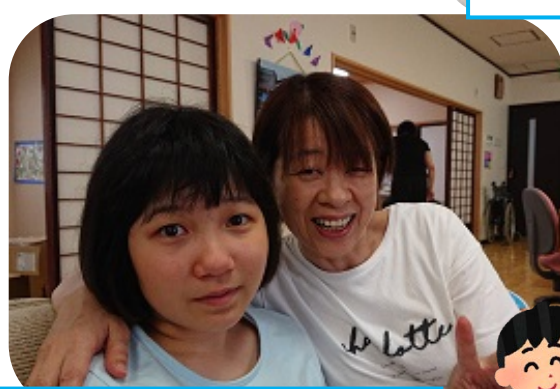
いつも仲良しな二人(^o^)



中華料理に舌鼓(^▽^)



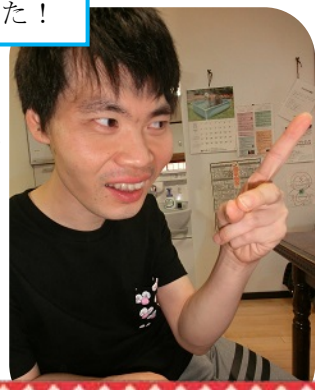
子どもからお年寄りまで、朝から賑わう季節がやってきた～♪



笑顔の眩しい夏でした！



あんたの顔も拭いてあげっちゃ！？



実習生さんとパチリ♪

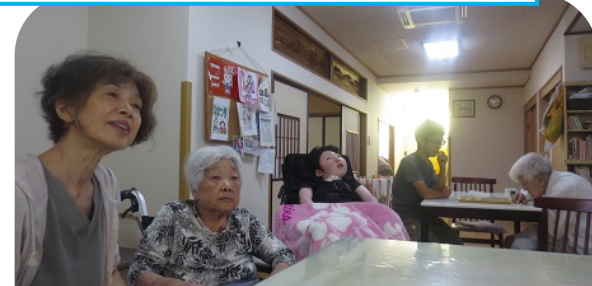
木町納涼祭



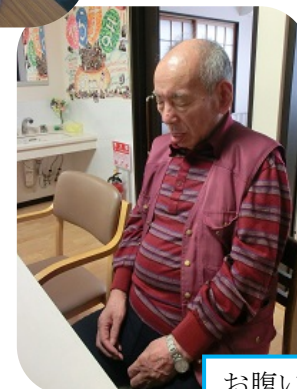
今年も木町納涼祭に参加しました！！
町内の皆さんも暑い中お疲れ様でした。



勝利の投げキッス♪



ボランティアさんの本の読み聞かせに集中！
奥のテーブルでは、将棋の真剣勝負中！



お腹いっぱいになると眠くなりますね～！



七夕を楽しんだ後は、恒例の大和百貨店レストラン！
この眺めも今年が最期。ゆっくり見て帰ろまいけ～☆



高岡七夕祭り



閉店前の高岡大和前にて、記念撮影☆



ウィングウィング前広場にて
たくさんの短冊、きれいだったね！



七夕の飾りつけ☆願い事たくさん書きました！

